

令和元年度第4回 理事学術部門長合同会議議事録

日 時：令和元年11月23日（土曜日）14：00～

場 所：岩手医科大学附属内丸メディカルセンター 循環器センター3階研修室

出席者：行森良一 菊池英岳 畠山秀樹 高橋一博 宮本祥一 高橋庸一郎
村上美月 山崎勝登志 岡田進 下川波歩 千葉拓也 中沢和浩
舘野幸枝 柴田祐二 小野寺奈緒 小原丈裕

はじめに（行森）

県学会、検査と健康展が終了した。県学会の田崎文得先生によるブラックホール撮影についての特別講演では一般の方が多く参加され、興味深く聞かせてもらった。第9回北日本支部学会に向けて、他部門連携により最大限力を発揮し取り組んでいけたらいいなと思いました。

I. 報告事項

1) 北日本支部連絡会議報告（行森）

- ・令和元年度 北日本支部幹事・学術部門長について
支部長から部門員変更の説明があった。
- ・日臨技支部長連絡会報告
支部学会のプログラム集の発送費について、現在は各都道府県が負担しているが、学会会計より支出する方向で進めることになったと説明があり、北日本支部でも各道県の発送費を調査することにした。
- ・令和元年度北日本支部学術活動報告（中間報告）
ランチョンセミナーについては、コンプライアンスに抵触するため講師・テーマを指定して依頼してはいけないことを確認した。
- ・令和2年度北日本支部研修会について
岩手県学会は、北日本支部医学検査学会があるため開催しない。
非会員の臨床検査技師に講師を依頼しても良いか質問があり、外部講師として招聘することは問題ないとした。
- ・北日本支部医学検査学会（第9回）について
メインテーマを『融和と協調』とした。来るべき超高齢社会で検査技師がすべきことは、患者に対し正確で最大限の検査データを提供することが使命である。医療人の一員として患者の利益になるよう努めることは当然だが、他職種連携についても重要だと考える。そこで本学会では、技師間の連携はもとより、他職種連携医療についても考えることができればと思いこのテーマにした。
サブテーマは『じえねしす（発端）・じえねらる（幅広い知識）・じえねれいしょ

ん（世代）』とした。それぞれの世代の強みを生かした検査室の運営や学会・研修会等への積極的な参加による幅広い知識を持ち、その知識と経験をもとに何かを始める発端となる。そんな技師を目指そうという想いを込めてこのテーマにした。サブテーマの頭文字を読むと『じえじえじえ』となる。

- ・北日本支部学術部門活動について

支部研修会の北海道と東北の分離開催について各部門長から意見を確認したところ、現行の方式での希望が多数であったので、北海道と東北地区を含めた研修会の開催はこのまま継続することになった。

- ・第 69 回日本医学検査学会について

柴田オブザーバーから一般演題登録の状況報告があった。10/4 現在、32 題。

今回からスキルアップセミナーは日臨技主催となり、認定に関わる内容のみとなった。

岩手県の一般演題登録数は、目標数 10 題に対し 11/18 時点で 1 題となっており、周知がされていないのではないかと。4 題くらいになる予定。

2) 第 24 回岩手県医学検査学会（高橋）

11 月 17 日中部地区担当で北上の現代詩歌文学館において行われた。参加人数は、会員 78 名、賛助会員 37 名、一般 30 名の計 145 名であった。

3) 第 8 回日臨技北日本支部医学検査学会視察報告（下川）

- ・会場等

2 会場で行われ、やや遠く感じる距離だった。会場 2 ヶ所は大変ではないか。

- ・受付周り

受付の順序をもう少しスマートにできたのでは。

スタンプラリー等もあったが、説明がなく宣伝効果が薄いように思った。

- ・一般演題

7 会場あった。不備等はなかった。

一般演題の講演時間 6 分、質疑 3 分、移動 1 分。タイムキーパーのアラームの音が大きく、一部演者はブザーで驚いたためか一瞬発表が途切れることがあった。ランプだけで十分ではないか。

1 日目最も聴講者が多かったのは『免疫』で 90 名程度。次いで『生理』で 70 名程度。2 日目もっとも多かったのは『生理』で 100 名程度、次いで『輸血』で 70 名程度。

- ・特別・教育講演

1 日目最も多かったのは『教育カンファレンス輸血』で聴講者は 130 名程度であり、立ち見が出るほどであった。『日臨技企画会長情勢報告』が 100 名程度、『学会企画 RCPC』が 110 名程度、『若手企画 AI の進出に伴う臨床検査室の変化』が 70 名程度。

- ・公開講演
聴講者は100名程度。一般の方は多くはなかった。
- ・ランチョン
ランチョン整理券が配布時間までに届かなかったりバタバタしていた。
お弁当が傷んでいたようだ。
- ・その他
前日の準備は早くから始めたようで、夕方訪れたときは終了しており、スタッフの最終打ち合わせをやっており段取りがいいなと感じた。当日も8時にはスタッフがほぼ全員集合して最終確認していた。
託児所は事前登録だったが利用者はなかったとのこと。ホームページ上でのアナウンス等がうまく伝わっていなかったのでは。次学会でも設置予定。

II. 第9回日臨技北日本支部医学検査学会について

メインテーマ・サブテーマは決定。

ポスターの構図・情報量は大体決まり、絵・写真は山田プランニングに別案をお願いする。

7会場で行う。

1) プログラム

- ・一般演題
100題程度を目標に、部門ごと早めに演題募集を。座長は演題が締め切られた時点で各県に振り分け決めてもらう。
- ・特別講演
諏訪部先生に依頼している。
- ・公開講演
ボケー座に依頼し、了承を得た。
- ・教育講演、教育カンファランス、教育セミナー
2日間で20個程の企画を考えなければならない。部門長さんには教育系の講演を2つ最低でも1つ考えてもらう。他職種・他部門連携を盛り込んでみては。
- ・RCPC
他職種、他部門連携を盛り込んでみては。
慣れた先生にお願いし、回答者を予め決めておく方がいいと思う。
- ・日臨技企画
高校生ガイダンス、学生フォーラム、会長情勢報告、臨床実習についてはありそう。
- ・若手企画

- ・ランチョンセミナー

第8回学会（山形）の報告を参考にする。

- ・機器展示
- ・式典
- ・懇親会

2) その他

- ・ホームページは県立釜石病院 佐々木さんをお願いした。
- ・前回の学会の資料やタイムスケジュールがあると動きやすい。何をいつまでにやればいいのかを取りまとめてもらいたい。
- ・各部門ごとに教育講演でどのような内容でやりたいかなど提示してもらおう。心電図の認定セミナーなど認定のコマを入れてもいいのでは。『融和と協調』に関するシンポジウムなど盛り込んでみては。

III. 岩臨技ホームページについて（榊ピーぷる）

- ・スケジュールや経緯のおさらい
- ・現在の進捗報告

4月のリリースに向けて作業を進めているところ。スマホ対応のデザインも作製した。